

太田川ダム濁水対策検討会（第3回）

議 事 概 要

日 時：平成28年2月18日（木）10：30～12：10

場 所：掛川グランドホテル

1. 出席者

会員14名（全員）

2. 議事

- ①第2回検討会の概要と対応
- ②濁水対策の詳細検討
- ③今後の方針

3. 審議結果

- 第2回検討会までの審議結果及び他ダムの濁水対策事例を参考に濁水対策の詳細検討を進め、検討結果について審議を行った。
- 放流濁度の低減効果が確認され、速やかに実施可能なダム運用の変更（早期濁水放流、躍層低下放流）については、早期に実施する方針とし、検討会で了承された。
- 施設整備が伴う濁水防止フェンスによる対策については、適切な設置位置や長さを決定した上で、適切なダム運用と組み合わせることにより、高い効果が発現される可能性がある。このため、平成28年度も、濁水防止フェンスの設置位置や長さ及びダム運用を変えた複数のケースについてシミュレーションを実施し、引き続き検討していくことを報告し、検討会で了承された。
- ダム運用の変更の効果を確認するために、モニタリング調査を実施することを報告し、検討会で了承された。

4. 会員からの主な意見

- 濁水防止フェンスは、設置位置や長さをより詳細に検討し、早期濁水放流や躍層低下の運用と組み合わせることで効果を検証していくほうがよい。
- 濁水の発生源となるダム上流域の森林整備が重要であり、長期的な森林管理の計画の立案し間伐等の対策を実施していくことが大事である。
- 地元としては、1日でも早い対策を実施してほしいと考えている。
- 早期濁水放流は改善効果が確認されたが、実施の判断基準や放流期間については、下流の河川利用関係者と調整をし、柔軟な対応をしたほうがよい。
- 濁水防止フェンスは、ダム堤体付近に設置することで、貯水池の水質鉛直分布に対して、

ダムからの放流口高さをフェンス下端付近に変更した際に生じるような効果が得られると考えられるため、貯水池上流部への同時設置も含めて、より効果的な方法を検討するほうがよい。